

防水機能

- 防水能力は、時計の種類と構造によって異なります。時計背面のマークを調べた上で、以下の説明をご参照下さい。
- 防水30M（または3ATM）：生活防水。
- スキューバ・ダイビングには、使用しないで下さい。
- 時計が水の中にある時や濡れてる時には、リューズを引き出したり調節したりしてはいけません。防水機能を完全にするには、リューズは押し下げしておく必要があります。
- 水中で又は時計は濡れている時には、防水機能が低下しますので、どのボタンも押さないで下さい。
- 防水機能を長く維持するために、2年おきに検査してもらいましょう。
- 外気温が時計内部の温度より低い場合、クリスタル表蓋の内側が一時的に曇ることがありますが、機能には影響ありません。暫くしても曇りが消えない時は、時計サービスセンターか時計店で見てもらってください。

